



# Dialogue

Creating the Next 60 Years

## 『記念事業実施報告書』

2014年5月24日

献学60周年記念事業

JLP Reunion – Welcome Back to ICU



献学60周年記念事業  
国際基督教大学



# Dialogue

Creating the Next 60 Years

ICUの日本語教育は、1953年開学と同時に留学生10名の日本語クラスから始まりました。それ以降、60年にわたり日本語クラスを提供し続けています。さらに1964年に日本語を母語・継承語とする学生のためにSpecial Japanese Programが開講され、今年で開講50年目を迎えます。これを記念して、JLP主催のJLP Reunion を大学食堂で行いました。

JLPで日本語コースならびにSpecial Japanese コースを履修した本科生のうち、連絡先が判明している卒業生約1500人、在校生100人に招待状をメールや郵便で送りました。一方で、退職なさった教員や職員にも連絡を取りました。ICUのホームページ、ReunionのFacebookを通して広報し、オンライン登録方式を用いました。

5月24日、初夏のすがすがしい晴天に恵まれ、卒業生76名、元教職員12名、在校生20名、現教職員など総勢120名以上の参加者をICUダイニングホールに迎えました。日比谷学長の歓迎挨拶のあと、ICUワインでの乾杯の音頭を卒業期の古い方、Yung Ying-yueさん（13期）と政次芳江さん（19期）にお願いしました。会場では学生時代のことを思い出す糸口となればと思ひ、スクリーンに過去及び現在の授業風景、教材、学生や先生たちなどの写真や映像を流しました。

プログラムとして座談会を企画しました。座談会では、JLPでの思い出、良かったことなどを語っていただき、さらに今後のJLP及びICUの発展のための提案をいただきました。

最初の座談会は、JLPで外国語を日本語として履修したBERZINS, MATTHEW さん(オーストラリア出身)、ASTIER, MARC-ANTOINE さん(フランス出身)、STANISLAUS, WARREN さん(イギリス出身)の3名の本科生です。現在、3人それぞれ日本語を使用する仕事を東京でしています。2番目の座談会には、Special Japaneseプログラム(通称スペジャパ)を履修した高畑絵里子さん、大西玲央さん、片桐啓秀さんをお願いしました。それぞれ翻訳、情報技術などの技能を用いて、バイリンガルであることを生かしています。

座談会での話の中で、JLPでよかったことは、一生の友達ができたとということが一番にありました。Jコースでは多様なクラスメートとの出会いがあり、世界中に知り合いができたと言いました。一方、スペジャパコースでは、自分と同じような背景を持つ人たちとのつながりができ、良かったと述べました。「JLPでの一番の思い出は？」との質問に対し、毎日朝1限のクラスで眠かったこと、クラスメートとの熱いディスカッション、それに漢字や語彙クイズのために勉強したことが出てきました。JLPのおかげで、日本語力が身についた、漢字が怖くなくなった、今の自分があ



# Dialogue



Creating the Next 60 Years

るという感想も聞くことができました。今後JLP及びICUの発展のためにすべきことは、今以上に広報に力を入れ、世界中にICUの存在を知らせることであるという結論でした。このような卒業生の力を借りて、ますますJLP及びICUの良さを発信し、多くの学生を育てることが、今の私たちの使命だと思いました。

JLPディレクター 田中和美

